

# キャリア教育の推進について

周南市立周陽中学校

## 1 学校教育目標

「人間性豊かで、心身ともにたくましく、思いやりのある生徒の育成」  
～人間力の向上を旨として～

## 2 学校経営方針（笑顔で信頼と活力のある学校）

- (1) 生徒一人ひとりの夢の実現を旨とするキャリア教育を推進する。
- (2) 心の教育を充実させ、豊かな人間性を涵養する。
- (3) 生涯学習の基盤となる確かな学力を定着させる。

学校評価を活用し、家庭・地域社会との連携強化

### 【経営信条】

「規律と信頼のある 人にやさしい学校づくり」

## 3 キャリア教育推進について

全ての教育活動を、キャリア教育で発達させるべき4つの能力領域（8つの下位能力）を意図的、継続的に指導・支援していくことがキャリア教育の実践であり、何ら新しいことを導入して実践していく教育ではない。したがって、すべての教育活動の内容をキャリア教育の視点で洗い出し、見直しを図り、それぞれを関連づけ実践することで「人間力」の向上を図りたい。

### ※キャリア教育で育成すべき能力

- (1) 人間関係形成能力（○自他理解能力 ○コミュニケーション能力）
- (2) 情報活用能力（○情報収集・探索能力 ○職業理解能力）
- (3) 将来設計能力（○役割把握・認識能力 ○計画実行能力）
- (4) 意思決定能力（○選択能力 ○課題解決能力）

## 4 キャリア教育の目標

「自らの生き方への関心を高める。そして、将来への展望を掲げ、よさや可能性を発揮しながら、主体的に夢の実現を図ることができる資質や能力を育てる。」

## 5 キャリア教育の指導目標

- (1) 一人ひとりのキャリア発達への支援とその的確な把握に努める。
- (2) キャリアに関する学習と教科等の学習との相互補完性を重視するとともに、体験や講話をとおり職業や進路への関心意欲の高揚と学習意欲の向上に努める。
- (3) 将来、職業人として自立し、時代の変化に柔軟に対応できる幅広い能力（人間力）の育成に努める。
- (4) 働くことの意義を理解させ、自立意識の涵養と豊かな人間性を育成する。

## 6 指導の重点

### (1) 第1学年

進路・勤労・職業に対する関心を高め、将来の希望や計画をもち、その実現のための自己の能力の伸長に取り組む態度を育てる。

### (2) 第2学年

職業や進学先等についての理解を一層深め、多面的に自分の特色を理解し、目標をめざして自己開発に取り組む態度を育てる。

### (3) 第3学年

職業人としての自分にふさわしい進路選択をし、その進路に関わる自己表現能力・人間関係形成能力・情報活用能力を育成する。

## 7 学習指導要領におけるキャリア教育関連事項

### (1) 特別活動

#### ①学級活動

- ・生活上の諸問題の解決、組織づくりや仕事の分担処理などの活動、個人および社会の一員としての在り方、学業生活の充実および自己の将来設計と主体的な進路の選択に関する事などの指導の充実を図る。
- ・Q-Uの実施と支援計画を作成し、生徒一人ひとりの支援と人にやさしい学級づくりに努める。

#### ②生徒会活動

- ・学校生活の充実・改善向上を図る活動やボランティア活動を通して将来設計能力や意思決定能力などを培い、個性の伸長や社会性を高める。

#### ③学校行事

- ・奉仕的行事における職業や進路に関わる啓発的な体験やボランティア活動などの自主的・自発的な活動をとおり、主体的、実践的な態度を育成する。
- ・運動会や文化祭などの活動をとおり、生徒個々のキャリア発達を図る。

### (2) 道徳

- ・自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努めようとする態度を養う。(1-(1)(4)(5)、2-(1)(2)、4-(1))
- ・勤労の尊さや意義を理解するとともに、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努めようとする道徳的実践力を育成する。(3-(3)、4-(2)(3)(4)(5)(8))
- ・友達の意見を聴いたり、自らも語ったりできるような、生徒同士のつながりを深め、学び合う場を授業の中に設定することで、自分の生き方やより良いあり方を考え、主体的に学んでいこうとする生徒を育てる。

### (3) 総合的な学習の時間

- ・学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的に、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えさせる。
- ・自然体験や職場体験活動、ボランティア活動などの社会体験、宿泊研修、修学旅行での震災学習・班別研修、高校体験入学、観察・実験、見学や調査、プレゼンテーションや討論、レポートやポスター作成、ライフスキルなどの学習を充実させる。

- ・学校図書館やインターネットの活用、地域の教育施設、関係機関の活用を充実させる。
- ・コミュニケーション能力を身に付け、他と積極的に関わる場を系統的・計画的に設定し、充実させることで、互いに認め合い、支え合い、ともに伸びようとする生徒を育成する。

#### (4) 各教科

- ・成就感・達成感や自己有用感を育む授業に心がけ、将来の職業生活に必要な基礎的知識・技能の習得を図る。
- ・キャリア発達に必要な4領域能力を育成するための学習支援を意図的・継続的に実践する。

☞課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする課題解決能力の向上を図る。

☞グループ学習を生かした授業を実践し、コミュニケーション能力や役割把握・認識能力、共同学習による自他の理解能力の向上を図る。

☞学習計画の立案と継続的实践を支援することにより計画実行能力の向上を図る。また、調べ学習などによる情報収集・探索能力の向上を図る。

- ・学ぶ喜びをもち、主体的に学習する（やる気）生徒を育成する。
- ・定期的な授業評価（生徒・保護者による）により授業改善を図る。
- ・学習内容の確実な定着をめざした取り組みの工夫（学習プリントの活用）
- ・小テストによる基礎・基本の定着
- ・校内研修での取り組みを実践する。
  - 言葉で伝える力を育てる取組
  - 学び直し、学び合いの工夫や基礎・基本の徹底と学力向上を旨とした取組

#### (5) その他

- ・集団生活への適応と進路の選択にかかるガイダンス機能の充実を図る。
- ・部活動は人間関係形成能力を始めとし、人間力を高める場として重要であり、生徒に積極的な活動を促す。また、学習活動も取り入れ総合的な力を育成する。
- ・積極的な生徒指導を推進し、豊かな人間性や社会性、集団生活に必要な規範意識やマナーを育み、生徒一人ひとりの自己指導能力を培う。

### 8 生徒・保護者・地域の様子

本校は、昭和47年4月に開校した学校で、周陽、桜木、遠石の3つの小学校から集う生徒数537名の大規模校である。

周陽校区は2号線バイパス沿いにあり、近くに商店街や市の野球場、陸上競技場などのスポーツ施設がある。また、学校周辺は緑地公園になっており、自然環境にも恵まれ、公民館主催による地域行事もたいへん盛んである。このような豊かな環境に生まれ育った生徒は、素直で気持ちのよいあいさつができる。授業や諸活動にも前向きに取り組む生徒が多く、集会時など話を聞く姿勢ができています。

しかし、身だしなみや服装に対する意識がやや薄い生徒もおり、経済的に厳しい家庭も多い。保護者は、学習や部活動に対する期待が大きく、学校に対して協力的である。

今後、コミュニケーション能力を高め、支え合うよさを実感できるような指導や、意思決定および課題解決能力を高め、目標に向かっての主体的な行動を促していく指導を工夫していく必要がある。

## 9 具体的な内容与方法

### (1) 教育課程への位置づけの工夫

- ・キャリア教育は、それに関連する様々な取り組みが教育課程に適切に位置づけられ、計画性と系統性をもって展開されてこそ、そのねらいが実現される。そのためには、キャリア発達の支援（4領域能力の育成）という視点から教育課程の在り方を点検し改善していくことが重要である。
- ・キャリア発達の視点に立ち、教科指導の充実を図る。社会生活や将来の職業生活における必要性や有用性等を認識させるという視点から、教科指導の工夫改善を進めていく必要がある。
- ・キャリア教育実施に向けた特色ある教育課程の編成を推進する。

### (2) 多様で幅広い他者との人間関係の構築

- ・今の子どもたちの多くは、同世代との緊密ではあるが限られた人間関係しかもつことができず、多様で幅広い人間関係を築いたり、その中に入っていったりすることには慣れていない。このことが、自立意識や社会性を培う上でのマイナス要因になっていると考えられる。このことから、多くの体験活動を通して、幅広い他者、特に大人との人間関係づくりを進めていく必要がある。
- ・学校生活においては、できるだけ異年齢交流の場を設定したり、教師やその他の大人との関わりの場を多くもつ活動を設定する。

### (3) 体験的な活動の充実

#### ① 集団宿泊研修の実施（1年）

- ・1学期の5月に宿泊研修を3日間実施する。（1）主体性や協力性を身に付けさせ、生徒同士の交歓を深める。（2）集団行動をとおして、礼儀やマナーを身に付ける。（3）親への手紙を書くことによって、親への感謝の心を育てる。
- ・事後指導を充実させる。各自の学習と感想等をまとめ、クラスごとに掲示するなど各自の学習結果を共有し、今後の学校生活に生かす。

#### ② キャリアスタートウイーク（5日間の職場体験学習）の実施（2年）

- ・2学期の10月に職場体験学習を5日間実施する。保護者や商工会議所の紹介による事業所に依頼し、5日間の体験活動を行う。その体験先決定にあたっては、意思決定能力を高める指導の一つととらえ、「楽しそうだから」「友達と一緒にけるから」「〇〇ももらえそう、食べられそう」という理由ではないように決定させていく。その際、必要に応じてキャリア・カウンセリングを行う。
- ・体験学習を行うにあたっての進路や依頼についてもできるだけ生徒に行わせ、他（大人）とのコミュニケーションの取り方の学習も行う。
- ・事後指導を充実させる。各自の学習と感想等をまとめた冊子をつくり、各体験事業所に礼状を付けて送る。その後、文化祭で発表を行い、各自の学習結果を共有する。

#### ③ 震災学習・班別研修（修学旅行）、福祉体験学習、高校訪問（オープンスクール・体験入学）の実施（3年）

- ・進学校決定のためのプロセスとして、各高校の日程（オープンスクール・体験入学）に合わせて高校訪問を実施する。（希望者）
- ・事後指導を充実させる。各自が体験して学習したことを感想等にまとめ、レポートやポスターを作成し、各自の学習結果を共有する。

#### ④ その他の体験学習

- ・年間を通じた地域ボランティア活動、全校による校舎の整備、トイレ清掃、地

域のお祭りへの参加など郷土文化にふれあう活動など幅広く体験を積むような指導計画を立てる。

#### (4) ゲストティーチャー、キャリア・アドバイザーの活用

- ・各学年、キャリア発達に応じた話や人生の生き方をゲストティーチャーやキャリア・アドバイザーの講話から学ぶ。(キャリア教育講演会の実施)
- ・職種・経歴・年齢等幅広い層から質の高い人材を確保し、継続的・計画的に招聘できるよう人材バンク登録システムを構築する。

#### (5) 個に応じた指導の充実

※キャリア・カウンセリングの実施

- ・各学年、年1回以上のキャリア・カウンセリングを実施する。教育相談週間を利用し並行して実施する。→ キャリア・カウンセリングを実施するためには、教職員に対するキャリア・カウンセリングの研修が必要である。教育相談との違いを理解し、目的もったカウンセリングが行えるようにしなければならない。

#### (6) 地域・他機関との連携

①周南市教育委員会・周南市商工会議所・ハローワークとの連携

- ・周南市教育委員会・周南市商工会議所・ハローワークとの連携により、職場体験学習の受け入れ先の紹介の依頼を行う。

②社会福祉協議会との連携

- ・お年寄りとの交流学习を実施する。
- ・社会福祉協議会との連携による福祉体験学習を実施する。

③地元事業所との連携

- ・学校の取組や生徒の活動を理解してもらい、職場体験が行える事業所の開拓を行う。
- ・キャリア・アドバイザー(職業講話)としての協力依頼をする。

#### (7) 保護者との連携

①学校から保護者への積極的な働きかけ

- ・家庭教育の在り方、働くことへの保護者の考え方や態度は子どものキャリア発達に多大な影響を与えることを念頭に置き、キャリア教育が子どもの主体的な進路選択・決定を支援するものであるという共通理解を確立する。
- ・進路に関する講演会等への保護者の参加を促す。
- ・キャリア教育等に関する情報や進路情報を学校だよりなどで積極的に提供する。
- ・職場体験学習のための受け入れ事業所を紹介していただく。

②家庭の役割の自覚と学校教育への積極的な参画

- ・保護者に学校の教育活動や運営活動に積極的に参加するよう働きかける。
- ・人生の先輩としての経験をゲストティーチャーとして子どもたちに話しをする場を設けるなど、子どもたちとふれ合う機会をできるだけ多く設定する。

#### (8) 小学校、高等学校との連携

①小学校との連携

- ・小中連携キャリア教育の働きかけを行う。
- ・授業参観、授業交流を実施する。6年生の授業体験を実施する。
- ・できる限り学習内容の関連付けを図る。
- ・教育課程の連携を図る。小学校での「出前授業」の実施など、小・中のスムーズな連携のために、より効果的な方法を検討する。

②高校との連携

- ・高校からの「出前授業」などで実施し、高校進学への意識を高める。